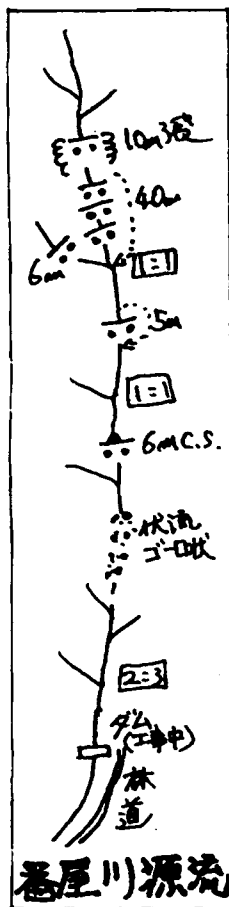


強引に登り、滝の水流右の小テラスにトラバース。その上の縄状10mは、シャワーで登りました。最後の15mは、問題なく直登です。この上はチムニー状の滝となり、ぐんぐん高度を上げていきました。

源流となり水量も少なくなると、40m程のナメとなります。フリクションで登ろうとしてスリップ。10m程滑落してしまい、痛い思いをしました。そのあとは、そばの細い枝をつかみながら、慎重に登りました。14:20水が消え、ヤブこぎとなり、10分程で稜線に出ることができました。 (記)

[タイム] 三倉沢出合(8:05)→大倉山よりの支流との出合(9:45)→大滝(12:00)
→稜線(14:30)



巻屋川源流

1990年7月28日

L

B

三倉沢をつめて稜線に出、1854mの三角点にタッチして、14:50巻屋川めざして下降を開始しました。ヤブをこいで降りていくと、沢状にはなるものの水が出ては消えという状況です。傾斜もゆるやかで、がっかりしてしまいました。

15:30ようやく水が流れ出すと、突然3段10mの滝が現われ、びっくりしてしまいました。そのうえこれをクライミングダウンすると、6mの滝。そしてその下は40mはあろうかという縄状の滝です。これは左岸の樹林帯に取り付き、捲きました。

16:25二俣となり、水量比は1:1です。左俣には6mの滝も見えます。本流は5m滝で左岸より捲きました。さらに1:1で右岸より支流を加えると、沢は次第にゴ-口状となってきます。6mのチョックストーン滝をすぎると沢は伏流になり、大きな石が転がっていて、降りるのに難渋しました。

水が出てきて二俣をすぎると、堰堤の工事現場となり、17:25下降終了。安張沢に入った西さんたちが出迎えてくれるはずでしたが、途中で林道工事が行われていて車が入って来れず、林道を1時間余も歩くこととなってしまいました。

(記)

【タイム】 下降開始(14:50)→40m滝(16:10)→下降終了(17:25)

安張沢右俣, 左俣

1990年7月28日

L1

荒れた安張沢林道に、安張沢左俣出合近くまで、無理矢理車を乗り入れる。8:30右俣の遡行開始。沢は暗いし、水量の割に沢幅も広い。しかし、流れはゆるやかで滝はかからない。砂防ダム2つを越すと1mの小滝。そのあと2mを最高に、合計4つの小滝があっただけで源頭となってしまった。いったん伏流となった水がなおもチョロチョロと流れている小沢をつめ、ブッシュがひどくなった所で右岸の斜面を登り稜線を目指す。この斜面は上部になってヒバが多くなり、ヤブこぎに苦勞した。

見通しのきかない稜線で小休止のあと、11:35左俣にむけて下降開始。ヒバのヤブを少し下ると、急峻なルンゼとなり、それをたどって左俣に出る。左俣はゆるやかな流れが続いていたが、やがて大岩のゴロゴロするやや急傾斜の河原が続くようになる。そして5mの滝。左岸をクライミングダウン。この先も急傾斜が続き、一気に高度を下げ、そのしめくりは5mの滝。左岸の小さな水流にそって下る。滝が出てくるのはここでおしまい。13:20、今はすっかり荒れ果て、部分的に施したコンクリート舗装の跡だけがかろうじて残っている林道に出て、下降終了とする。

(記)

【タイム】 右俣出合(8:30)→右俣終了(10:35, 11:00)→稜線(11:25, 11:35)→左俣下降開始(12:00)→下降終了(13:20)→車デポ地(13:50)

